

3 - (4) 富山県

1 米の品質や指導の状況

(1) 夏季の気温の推移 (H11~13)

3年連続して、夏の気温は記録的な高温となった。

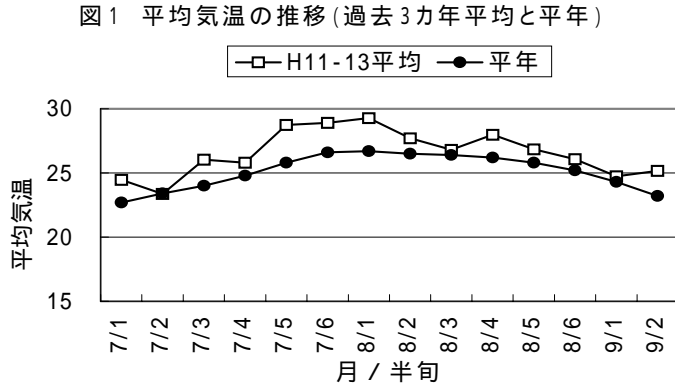


表1 最高気温 35 以上の
日数の記録 (7~8月)

順位	年・日数
1位	1994年・14日
2位	2000年・13日
3位	2001年・12日
4位	1999年・10日
4位	1995年・10日

(2) 収量および品質の状況 (H11~13)

3年連続の記録的な高温の下、収量は比較的高い水準を維持しているものの、H11はカメムシによる斑点米、H12は胴割粒、H13は白未熟粒などの多発により、品質は著しく低下した。

表2 県産米の収量および品質の概況 (H11~13)

	収 量					
	単収 kg/10a (全国順位)	収量構成要素 (平年比)				
		m ² 穂数 本/m ²	1穂籾数 粒/穂	m ² 籾数 百粒/m ²	登熟歩合 %	千粒重 g
H11	524 (12位)	408 (104)	70.5 (96)	288 (100)	82.4 (99)	22.2 (99)
H12	540 (12位)	399 (101)	71.2 (98)	283 (98)	87.9 (105)	22.9 (102)
H13	545 (8位)	434 (109)	67.0 (92)	291 (101)	85.5 (102)	23.1 (103)

	品 質	
	1等比率 % (全国順位)	主な格下理由
H11	75.7 (11位)	カメムシ 斑点米
H12	75.2 (18位)	胴割粒
H13	65.6 (27位)	白未熟粒

(注)

- ・単収は統計情報事務所発表値(粒厚1.7mm以上)。
- ・収量構成要素はコシヒカリ生育観測ほ平均値。
- ・1等比率はうるち玄米のもの。H13は2月末日現在、その他は最終(翌年10月末日現在)。

(3) 13年産米の品質低下要因

背白・基白粒の発生

背白・基白粒は、出穂前期から中期の気温が高いと発生しやすい。13年の出穂から20日間の気温は、平年に比べかなり高くなった。また、穂揃期や成熟期の葉色が薄いほ場で、背白・基白粒の発生が多くなった。

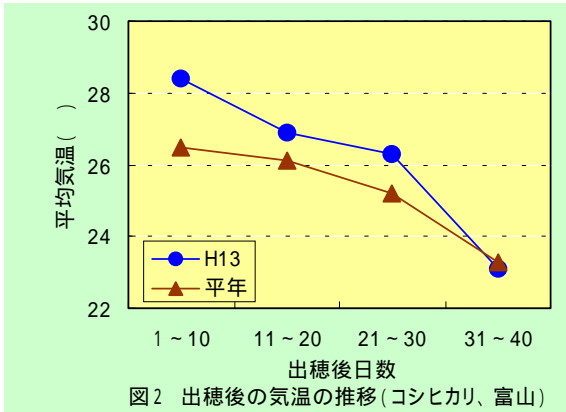


図2 出穂後の気温の推移 (コシヒカリ、富山)

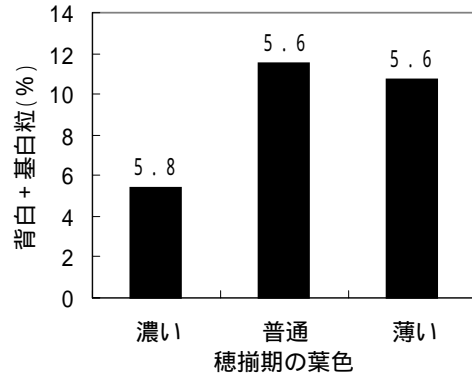


図8 葉色と品質の関係 (砺波農改)
注) 図中の数字は精米蛋白含有率

乳白粒の発生

コシヒカリの登熟最盛期に当たる8月9~12日の全天日射量は、平年を下回った。また、この4日間の最低気温が平年より高くなったので、登熟条件が劣悪となった。さらに、13年は、昨年に比べ穂数が多くなり、m²当たり籾数も平年を上回った。これらのことから、乳白粒の発生が多くなった。

表3 コシヒカリの穂数・籾数 (生育観測ほ)

	穂数 本/m ²	1穂籾数 粒	m ² 当籾数 ×100粒
13年	436	69.6	302.7
平年	396	72.8	288.3
平年比	110	96	105

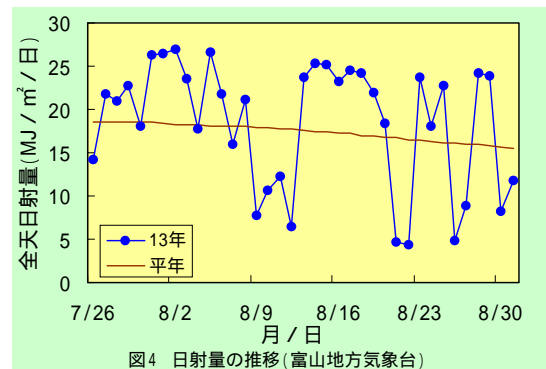


図4 日射量の推移 (富山地方気象台)

(4) 平成13年度の指導状況

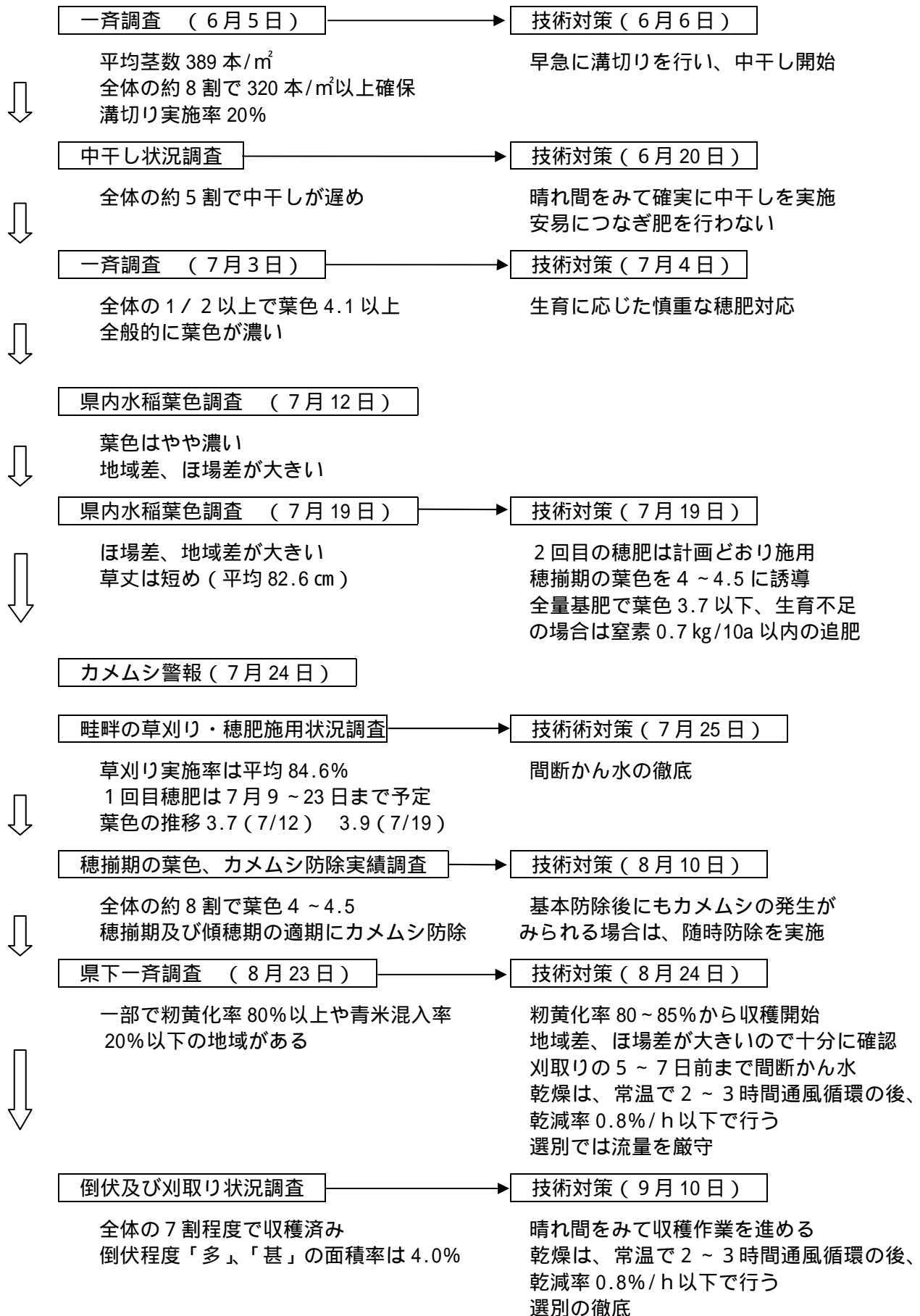
指導文書の発出

- ・生育状況と当面の技術対策に関する情報(「TACS情報」) 9回
- ・米作改良対策本部による品質向上情報等 6回
- ・高温、少雨等の気象災害対策等 9回
- ・斑点米カメムシ類発生注意報(7/6)および警報(7/24)

会議の開催

- ・県(行政、試験研究、普及)と農業団体等により構成する県米作改良対策本部 9回
「元気な富山米総点検運動」の実施
- ・a品質に影響を及ぼす管理ポイントを明確にし、b品質に影響を及ぼす事象を事前の調査のもとに予察(調査分析)し、cそれに対する技術指導とその後の管理状況の把握・分析の徹底に努め、富山米生産の総点検運動を展開した(実施概要は次頁)。

「元気な富山米総点検運動」の実施概要（平成 13 年度）



2 今後の指導について

(1) 生産振興基本方針

基本方針

米をめぐる情勢は、全国的な過剰基調と景気低迷の中で、米価の低迷や低価格米への需要の移行など、大変厳しい状況にある。加えて、本県産米については、3年連続で品質が低下し、県産米全体に対する信頼性や市場評価の低下が懸念されるなど、良質米生産県としての地位を揺るがす厳しい事態であり、緊急かつ抜本的な対策を講じていく必要がある。

このため、平成14年度においては、品質向上を第一に、近年の高温傾向など気象変動に耐えうる稲作を推進していくため、土づくりを全県的に推進するとともに、適正な生育量への誘導、登熟期の稲体の活力維持及び調製選別の徹底などの技術対策の徹底に全力を上げるものとする。とくに、品質低下の著しい地域・地区への重点指導など、地域段階での対策の徹底を生産者をはじめ関係機関団体が一丸となって取り組むものとする。

《推進目標》「元気な富山米」(水と人の幸。富山米)

1 安定稲作の推進	⇒	{	・ 土壌改良資材や堆肥などによる土づくりの推進 ・ 気象変動に対応した技術対策の徹底
2 高品質で均質な米の生産	⇒	{	・ うるち玄米1等比率95%以上 ・ 玄米水分15.0% ・ 整粒歩合80%以上
3 良食味米の生産	⇒	{	・ 精米タンパク質5.5% ・ 玄米白度20確保

重点推進事項

1) 気象変動に耐えうる「たくましい稲づくり」の推進

○元気な土づくりの推進、生育予測や気象変動等に対応したきめ細かな技術対策の徹底と迅速な情報伝達

2) 「高品質で均質な米づくり」の推進

○田植時期の繰り下げや中干しの徹底による生育の早まりの抑制と適正な生育量への誘導

○農協や営農組合の乾燥調製施設での1.9mmふるい目使用による選別の徹底と一般農家への推進

○カントリーエレベーターへの色彩選別機の導入による品質の向上と均質化の推進など品質管理の徹底

3) 「美味しい米づくり」の推進

○穂肥の適切な施用(時期・量)や登熟期の水管理の徹底による稲体活力の維持

推進方法

1) 県米作改良対策本部生産部会において、重点推進事項に基づく対策等を策定するとともに、現地で生産部会を開催するなど、地域の技術者協議会などを中心とした地域対策の策定と迅速かつ適切な指導の支援に努める。

2) 各種情報や分析機器を活用し、各地域の産米の品質・食味に影響を及ぼす管理等の実態調査とそれに基づく検証・改善指導など「元気な富山米」総点検運動を展開し、富山米の品質向上を図る。

3) 高品質かつ美味しい富山米を安定的に生産する体制整備を進めるため、モデル地区を育成するとともに、普及推進を図る。

(2) 研究課題

(高温による品質低下の状況や指導の評価を踏まえ、取り組む研究テーマ)

気象被害粒発生防止システムの開発 (平成 13 ~ 15 年)

【研究内容】白未熟粒、青未熟粒および胴割米など、気象要因によって被害が甚大となる気象被害粒の発生予測技術を開発し、リアルタイムな情報発信技術を確立する。

土づくり資材による品質向上試験 (平成 13 ~ 15 年)

【研究内容】珪酸質資材の施用が米の品質等に及ぼす影響を調査する。
(高温など気象変動に対処できる稲作の推進)

緑肥作物を組み込んだ新輪作体系による地力増強技術確立試験 (平成 14 ~ 16 年)

【研究内容】水稲及び大豆の前後に緑肥冬作物を組み込んで地力増強効果や水稲の生育・品質に及ぼす営農を検討する。
(高温など気象変動に対処できる稲作の推進)